

# 介護ビジョン

平成15年10月15日第三種郵便物認可 毎月1回20日発行 令和5年7月20日発行 通巻242号

ケアのある風景

特定医療法人財団五省会

介護老人保健施設

みどり苑

第1特集

強い組織をつくる

介護現場の

リーダー育成

第2特集

「看取り」の旗を掲げよ！

施設が提供する

「最高の最期」

介護小説

「もつひとつの世界〜それぞれの、その人〜」

第16回

宝石インクルージョン



ケアのある  
風景

特定医療法人財団五省会

介護老人保健施設

みどり苑



利用者と地域と職員  
誰もが安心できる  
環境づくりをめざして

富山県富山市で60年以上にわたって地域に根ざした医療・保健・福祉サービスの運営に尽力してきた、特定医療法人財団五省会。介護老人保健施設みどり苑は、同法人が高齢者の自立と在宅復帰をサポートするために2001年に開設した。驚異の人材定着率を誇る同苑の取り組みについて紹介する。

撮影／吉尾大輔



思いやりをもって接し、みんなが安心できる施設づくりをめざす



明るい陽の光が差し込む食堂で、思い思いに過ごす利用者たち

## ロボット導入の 本来の目的を 理解したことで 人材が育った

今、介護の現場における大きな課題の一つといえ  
ば人材の確保。程度の差こそあれ、どの介護事業所  
も人手不足の解消、あるいは職員の離職防止・定着  
促進に向けての取り組みに頭を悩ませている。

みどり苑に尋ねてみたかったのもその点にある。  
ところが、返ってきたのは「この一年での離職者は  
ゼロ」という思いがけない回答。俄然興味がわき、  
その背景に何があるのかを探っていくと、同苑が時  
間をかけてチャレンジしてきた、いくつもの取り組  
みが見えてきた。

事務部長の家城裕子さ  
んは、介護人材育成のた  
めにキャリアパスの見直  
しを図ったと語る。

「2020年度に介護労  
働安定センターの支援を  
受けて、介護職員キャリ  
アパスを作成しました。  
人事評価制度に基づき分  
類した等級ごとに求めら  
れる能力、職務内容といっ  
たものを一覧にまとめて  
可視化し、これに基づき  
独自の介護管理職養成講  
座を実施しました」。その  
結果、以前は主任までし  
かなかった介護の職位に  
初めて管理職が誕生。管  
理職が育つと下も育ち、  
各自が自信をつけたこと  
で、介護の質が上がるこ  
とも実感できた。

また、法人内の病院との  
間で職員をローテーション  
させるシステムを組み込  
んだことで、「介護職員  
の視野が広がった」と  
看護介護部長の多賀誠一  
さん



モンゴルから来た介護福祉士も現場で活躍している



見守りシステムからの通知をタブレットで確認



看護介護部長の多賀誠一さん



事務部長の家城裕子さん



介護助手の藤瀬昌美さん。  
現在、実務者研修受講中と意欲的だ

は語る。「急性期や療養型の病院での経験によって病気のことも理解し、全人的な介護へとつながることを期待しています。介護職員のモチベーションアップにもつながっているようです」

そして、働きやすい職場づくりに重要な役割を果たしているのが介護ロボットの活用である。同苑は早くからロボットを導入してきたが、「何となく使っていた」と家城さんが言うように、意識的な取り組みに至らない時期が長かった。そこで、ロボット導入の本来の目的を理解し共有するため、2020年度にロボットタスクチームを立ち上げ、厚生労働省の「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業」のサポートを受けながら、ロボットの有効活用に取り組んだ。「まず職員向けにアンケートを実施してみると、身体的にも精神的にも負担が減ったという声が集まりました。つまり、働きやすい職場づくりに貢献できていることが職員の間でも確認できたのです」と家城さん。そこからロボットをいかに活用していくかに意識が変わったのだという。「ロボットを使うことで生産性が向上する、生産性が向上するとケアの質も向上することを職員が身をもって気づけたことが、ロボットタスクを通じて私たちが得ることのできた大きな成果でした。この間、人材が本場に育ったと実感しています」

こうしたタスクチームの取り組みが評価され、富山県の「令和3年度がんばる介護事業所表彰」の雇用環境部門を受賞。すべての職員がロボットを活用できるようになり、ロボットタスクチームは解散——。それが最終目標だと家城さんは笑う。



TEAM GREENEENSのリーダー、横井勝聡さん



4本の矢のひとつ、リハビリ。  
高齢者の自立と在宅復帰を支援する



施設長の亀井哲也さん。地元のマラソン大会を2連覇し  
「鉄人です」「同苑で一番元気」と職員は太鼓判を押す



「母」の文字をかたどったロゴマークには、  
親を敬い慕う気持ちが込められている



機能的なトイレやST室を設けるなど、同苑は現在大規模改修中



特定医療法人財団五省会  
介護老人保健施設

## みどり苑

● 富山県富山市秋ヶ島146・1  
☎ 076・428・5565  
🌐 www.sainohp.or.jp

開設は2001年4月。安心と思いやりを大切に、地域に開かれた医療と福祉のサービス向上に努めている。スローガンは「明るく、たのしく、すこやかに」。みどり苑の名称は、五省会の発展に尽くした西能正一郎氏と竝氏の母、みどり氏にちなんで名づけられた。



# 4本の矢で 地域の人たちの 生活を支える

同苑では高齢者を対象にした介護助手の雇用にも取り組んでいる。これは富山県の「元気高齢者介護助手モデル事業」に参加したもので、2021年度に2人採用した。シーツ交換やタオルたたみといった間接業務を担当してもらうことで介護職が本来の直接介助に専念できるようになり、質の高いケアの提供につながっている。また、介護助手となった高齢者にとっても社会参加や生きがいにつながり、施設利用者を含めた三者すべてに良い結果をもたらすこととなった。

さらには外国人職員の受け入れを継続的に行っており、現在モンゴル人4人、中国人1人が在籍中。これは将来的な人材不足に備えるための取り組みであることはもちろんだが、そうした思惑とは別に、彼女たちは積極的に学び、現場にしっかりと溶け込み、大きな戦力として活躍している。同苑になくてはならない存在だ。

同苑はまた、地域にも目を向けている。中長期的な視野をもち、自分たちの得意分野である「医療・介護・リハビリ・栄養」の3本の矢ならぬ「4本の矢」で地域住民の生活を支えようと、地域貢献チーム「TEAM GREENS(グリーンズ)」を2022年度に発足させた。4つの「E」は4本の矢

に見立てている。活動としては5つ。介護職による地域交流セミナーの開催、地域清掃、防災活動、収穫祭(独自イベント)の実施、そして利用者も巻き込んだの地元サッカークラブ「カターレ富山」の応援である。地域連携室主任でTEAM GREENSのリーダーを務める横井勝聡さんによれば、地域交流セミナーは介護職員のレベルアップにつながっており、今年度はサッカーの応援などを通じて「地



地域交流セミナーや清掃活動などで地域に貢献



域の人たちと利用者さんとのつながりも深めていければ」と期待しているとのこと。

同苑にはビジョンがある。そして、それを個人に押しつけない思いやりがある。「離職者ゼロ」は、そんな理想と思いがもたらした帰結だ。職員が学び、気づき、フォローし、対話をくり返しながらつかみ取ってきた成果なのである。

同苑の未来は明るい。